

平成21年 1月22日

## 北東アジア12フィートコンテナ普及拡大検討委員会

### ～第3回委員会(最終)を開催～

九州運輸局では、この度、下記のとおり第3回委員会を開催し、12フィートコンテナの普及拡大方策をとりまとめ、次年度以降の実証実験モデルを具体的に示し、意見交換を行うこととしております。

本委員会は、昨年8月に12フィートコンテナの普及拡大方策の検討や次年度以降の実証実験に向けたモデル設計等を行うことを目的として設置したものであり、これまでに12フィートコンテナの国際輸送実態の把握や国際輸送プロセスにおける課題等について意見交換・検討を行ってきたところです。

今回の最終検討結果については、当局が本年度実施している「北東アジアの12フィートコンテナの普及拡大に向けた調査」に反映させ、とりまとめることとしております。

#### 記

1. 開催日時 平成21年 2月 3日(火) 14時00分～16時30分
2. 開催場所 福岡合同庁舎新館 九州運輸局 10階会議室  
(福岡市博多区博多駅東2-11-1)
3. 議 題 (1)ヒアリング調査結果について  
(2)12フィートコンテナ国際輸送における課題の整理について  
(3)12フィートコンテナの普及拡大方策について  
(4)実証実験のモデル設計について  
(5)質疑応答・意見交換
4. 委 員 員 男澤 九州国際大学准教授(委員長)、日本貨物鉄道(株)九州支社、  
日本通運(株)、門司税関、国土交通省
5. 取 材 委員会は傍聴可、及び頭撮り可です。  
なお、プレス席をご用意いたしますので、取材される場合は別紙の  
取材申込書により事前に FAX にて送信願います。

連絡先: 九州運輸局 交通環境部 物流課

担当 : 鹿毛、才田

電話 092-472-3154

FAX 092-472-2316

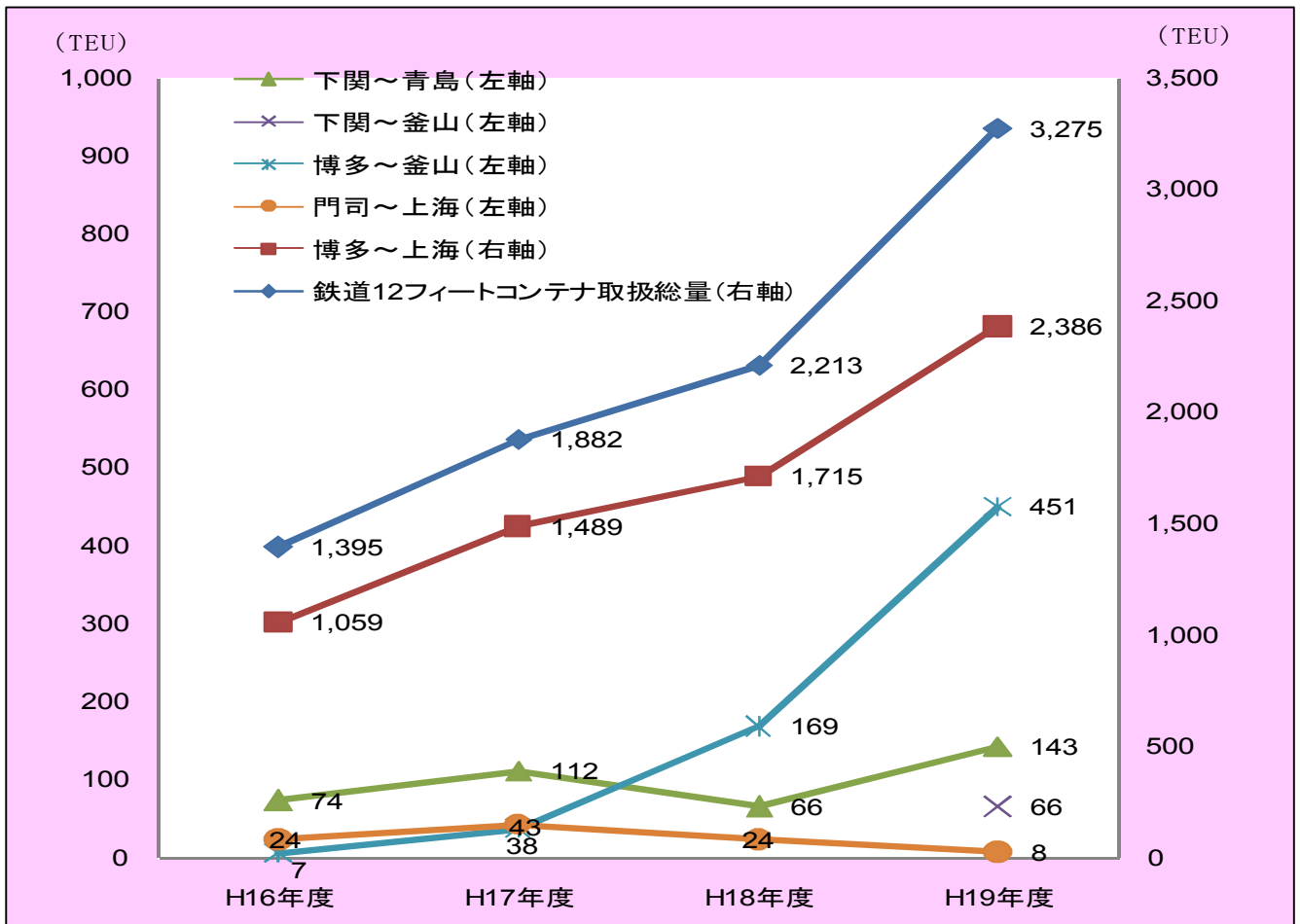


## 12フィートコンテナの国際輸送実態(対中国・対韓国)

参考資料

- ・12フィートコンテナの国際輸送量は急伸中。
  - 2007年度:3,275TEU
  - 2004年度からの4年間で2.3倍。年平均成長率=33.5%
- ・2007年度の航路別取扱量の内訳は、
  - 博多～上海が72.9%、博多～釜山が13.8%、
  - 下関～青島が4.4%、下関～釜山が2.0%、その他が6.9%
- ・博多～上海と博多～釜山で2007年度の対前年度比は各々1.4倍、2.7倍と急伸中。
- ・主要輸送品目は、
  - 輸出:電気・電子部品、自動車部品、雑貨など
  - 輸入:家電、自動車部品、生鮮品、衣料、雑貨など
- ・主要な仕出・仕向地域は、関東、関西、東海、東北

## JR貨物 鉄道12フィートコンテナ航路別取扱量の推移



※本資料はJR貨物より入手したデータを加工修正して作成

# 国際シーアンドレール輸送に関するアンケート調査結果

## 調査方法

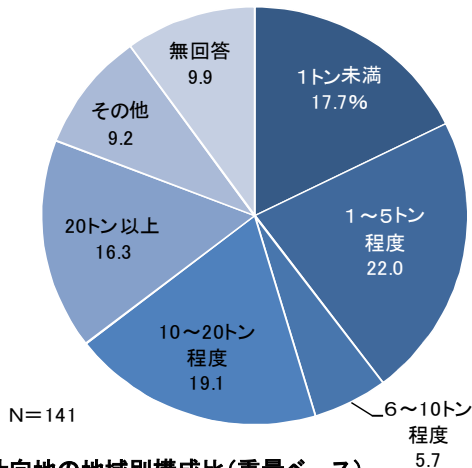
- ・シーアンドレール利用実績のある企業、中国(上海近郊)・韓国に事業所を持つ日本企業のなかから729社を抽出
- ・発送:2008年10月10日(金) 締め切り:2008年10月24日(金)
- ・郵送による配布、郵送またはFAXによる回収

## 回収状況

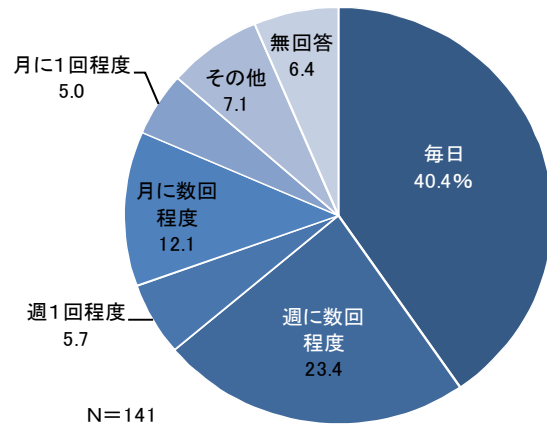
- ・有効回答数:141通(有効回答率 19.3%) (内訳)会社全体での回答:125通 事業所単位での回答:16通

### (1) 国際物流にかかる1回あたりの発生量

～20トン未満が全体の6割以上

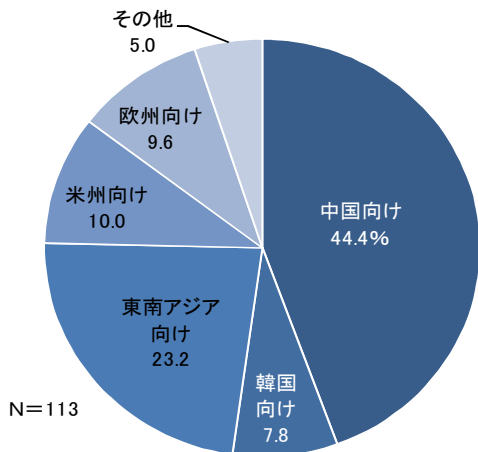


### (2) 国際物流の輸送頻度～毎日の企業が4割を占める



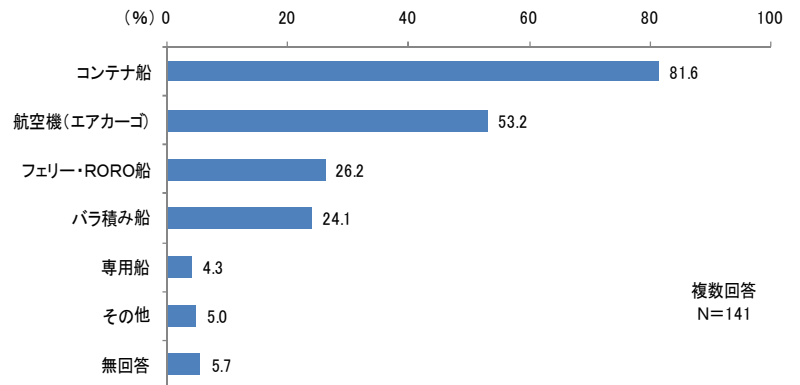
### (3) 仕向地の地域別構成比(重量ベース)

～中国を中心にアジア向けが全体の7割以上



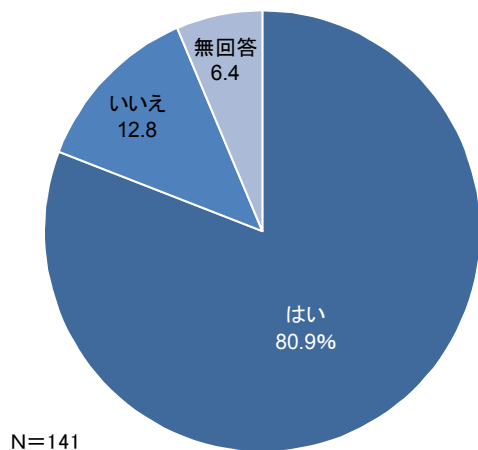
### (4) 国際物流における主な輸送手段

～コンテナ船、航空機(エアカーゴ)が中心



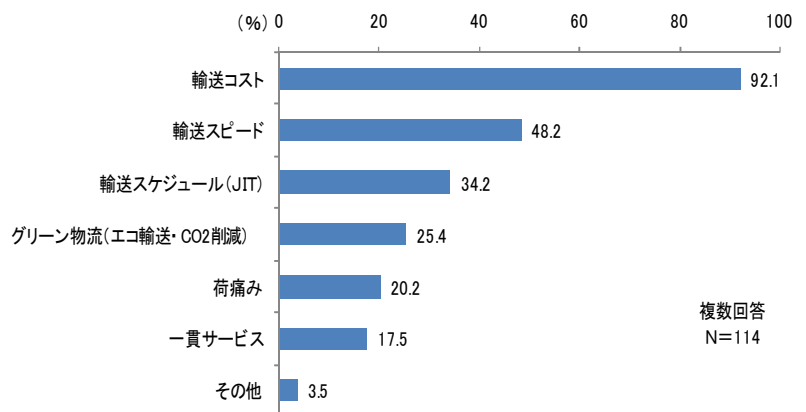
### (5) 国際物流における課題及び改善ニーズの有無

～8割が課題・改善ニーズがあると回答

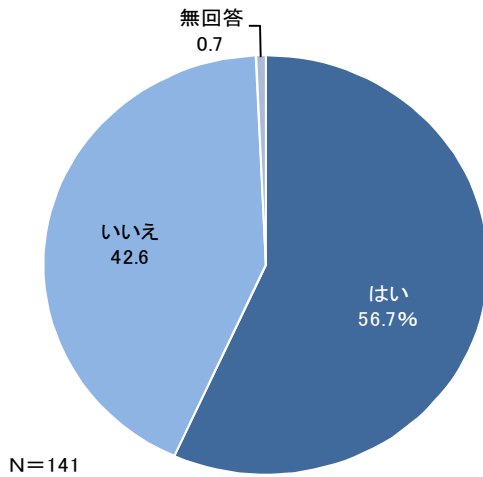


### (6) 国際物流における具体的な課題や改善ニーズ

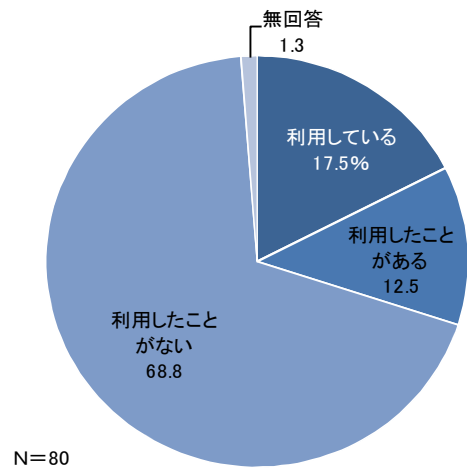
～とりわけ輸送コストに課題



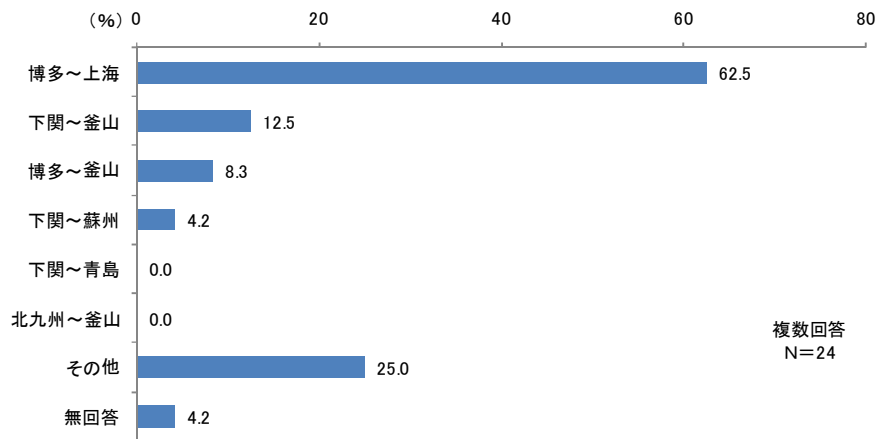
(7)シーアンドレールという輸送形態の認知度～半数以上の企業が認識



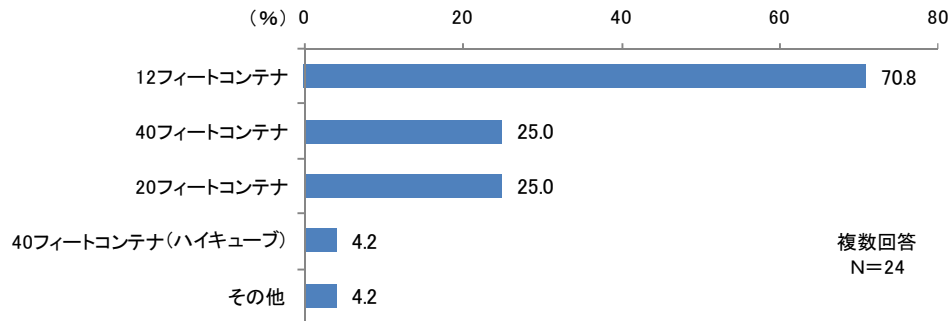
(8)シーアンドレールの利用実績  
～利用実績のない企業が7割弱



(9)シーアンドレールにおける利用航路～大部分は博多～上海(SSE)を利用



(10)シーアンドレールの際の利用コンテナの種類～12フィートコンテナの利用が7割



(11)シーアンドレールに関する実証実験(トライアル輸送  
実験)への関心の有無～関心のある企業は全体の3割

